

仕事人秘録

静岡銀行では周りから変わり者と思われていたようだった。

私という人間を育ててくれた静岡銀行には本当に感謝してもし尽くせないほど感謝しています。ただ、研修制度については少しとまどいました。子どものころからの押しつけられることへの抵抗なのでしょう。銀行はおそらくどこも横並びの研修プログラムばかりだったと思いますが、業界内では通用しない資格試験が多いような気がしていました。

行列のできる経営相談所 ⑥

富士市産業支援センター長
小出 宗昭氏



2カ所目の勤務地となった静岡市の瀬名支店の同僚と（中央が本人）

銀行員悩ませたバブル

す。1985年12月に赴任した。まだバブル経済には突入してはいませんが、住宅ローンや自動車ローンの資金需要はありました。その後、バブルに突入すると不動産投資のための融資の相談を受けるようになったのですが、静岡の方針として慎重な姿勢を崩しませんでした。するとお客様から「なぜ、静銀は（資金）出してきた人でした。なぜだかはわかりませんが、私を引き立ててくれました。この時代

そんな具合です。それでも銀行員向けの通信教育は受けていました。自分で科目を選べるので、強制されて勉強するものではなかったからです。

を）出せないんだ。他の金融機関は出してくれるのではありません。銀行員としての足腰を鍛

私は資格試験には関心を持ってなかったのですが、全く受けませんでした。しかし、上司から叱責されたことは一度もありません。「しょうがないなあ。小出君は」。

銀行では様々な地域や業種、業態のお客様を相手にするわけですから、きめ細かなニーズを酌み取る必要があると思っていました。銀行員もビジネスセンスが

2カ所目の赴任地で銀行業務の楽しさを知る。最初の横浜支店は都会ですが、2店は静岡市の住宅地にある瀬名支店です。徳川家康の正室、瀬名がいました。本当に難しい判断です。

ある日突然、多額の資金が振り込まれ、「借り入れを返済します」と言われて取引がなくなってしまうと聞いたこともザラです。そんな時代でした。バブルが崩壊したころには「やらなくてよかった」と思った案件もありました。